

資料 「農業系高校における特色ある取組」(活動概要の紹介)

令和4年9月調査

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
北海道	倶知安農業	日本酒プロジェクト	生産科学科	地元企業の酒造会社と連携をし、原料を提供してオリジナルの日本酒の醸造。また、副産物として出る酒粕を利用した商品開発。
	岩見沢農業	専門高校フューチャープロジェクト	農業科学科、 農業土木工 学科	北海道の指定事業で、本校と札幌工業高校が指定を受け、北海道農業の今後を創造する研究を農工連携して行う事業。【2020年度～3カ年】
		岩農食農塾	食品科学科	小学生に食と命の大切さを伝えるために行っている食育事業。空知総合振興局等に支援を受け、市内小学生への食育授業、地域農家へのファームステイなど実施。
		花あるあるプロジェクト2022	生活科学科	空知総合振興局、(株)セイコーマート、JAIいわみざわと連携し、地域の主要な生産物である切り花の消費拡大、花を飾る文化の普及と定着を目指した取り組み。JAIいわみざわと学校産の花を生徒が調製・出荷。年間20回道内のセイコーマートで販売する。
		ICTを活用した農業土木施工の学習	農業土木工 学科	ドローンや自動操縦の重機を使用した土木施工について、空知建設業協会の支援のもと学習している。
		日仏農業教育連携	生活科学科	生け花やフラワーアレンジメントを通じた交流を行い、伝統的な草花装飾技術や草花消費の国際比較、先進的草花装飾技術について学習を深める活動
		北海道電力との連携	農業科学科	北海道電力と農業関係資材の使用用途、バイオマスブリケットストーブの活用について研究を始める。また、他分野についても今後協議を重ねながら連携の幅を広げていく予定。
		グローバルGAP認証取得	農業科学科、 食品科学科	平成29年度より10品目において認証を取得・更新している。令和2年度より取得におけるコンサルティングについても生徒が主体となって行い、令和3年度からプレ審査(内部監査)を卒業生(令和3年度は平成30年度のGAP取得に係わる生徒リーダー)が担当する仕組みとした。
		寒冷地における茶栽培		埼玉県立茶業研究所と簡易型共同研究の締結を行い、温暖化が進む北海道における茶栽培の適正について7品種を定植し試験を実施している。
		プラチナ触媒の活用に向けた共同研究	生活科学科	北海道大学、北海道工業試験場と共同で、エチレングスを除去するプラチナ触媒を用いて、花の鮮度保持を実現する研究
		保育園との木育交流	森林科学科	市内保育園の園児を対象に木や森に親しむ交流会・活動を年間通して実施している。
	酪農学園大学との連携	全7学科	SDGs、みどりの食料システム政策を見据えて、将来の農業のあり方を、様々な視点から捉え研究する。現在までに6課題の研究が動いている。	
	3年生と語る会		学科代表生徒7名と校長、商工会議所会頭が日々の学びについて、将来の岩見沢について語り合う会。今年度は学校関係者、地域農業関係者等声かけし、市民会館で行う。	
	当別	ホテルライフオート札幌前庭花壇造成	園芸デザイン科	ホテルライフオート札幌と連携事業で前庭花壇造成を春、夏、秋3回に分けて実施
	旭川農業	旭農高日本酒プロジェクト	農業科学科	北海道旭川市の主要作物である米の栽培・加工・流通・地域経済効果向上の仕組みを実学し、地域農業の魅力拡大を展開中である。
		あったか旭川まん6次産業化プロジェクト	食品科学科	北海道旭川市のご当地グルメであるあったか旭川まんの開発・製造・流通・普及を通し、全国へ向けた活動を展開中である。
		上川林業官学広域連携事業	林業科学科	北海道大学と上川町との連携事業で、科学的視点を持った林業担い手を育成している。
		オーガニックフラワーの研究	生活科学科	オーガニックフラワーの研究を通してSDGsについて学んでいる。
	遠別農業	海外農業研修	生産科学科	年1回、3年生を対象に町の全額補助を受けて海外に農業研修に行っている。令和3年度から国内で農業研修を実施している。
	標茶	スマート農業の推進	総合学科	最新の搾乳ロボットを更新し、スマート農業の推進を行っている。また、農場 HACCP をいち早く導入し、常によりよい農場環境を模索している。
中標津農業	計根別食育学校	生産技術科、 食品ビジネス 科	今年で17年目を迎える活動であり、「食と農への感謝」と「地域愛の醸成」をテーマに地域の幼稚園から中学校まで11年間をとおした食育活動を展開している。	
帯広農業	スマート農業の学習	酪農科学科	トラクタの自動操舵、農業散布用ドローン講習会、ICT技術を活用した牛群管理などを学んでいます。担い手不足に対応するため、農作業の効率化について理解を深めています。	
	GAP認証	農業科学科	認証の5年目を迎え、7品目を取得予定となっている。外部関係機関との連携、GAP学習会など授業に組み込み取り組んでいます。	
	産・官・学・金融連携事業	食品科学科	地元企業である日本甜菜製糖(株)、帯広信用金庫、食品加工技術センター、北海道庁とともに、食品機能が期待できる天然のオリゴ糖「DFAⅢ」を配合した商品開発に取組み「ヘルシーDo」認証を得ている。	
	地元企業との連携		十勝産小麦を100%使用したパン製造・販売している地元企業と連携し、小麦の栽培からパンの製造までを体系的に学習している。この連携は15年を超える継続的な取組みとなっている。	
士幌	志プロジェクト	アグリビジネス 科 フード システム科	生徒の夢や想いなどを、書き記し、その生徒の目標に対してブランド認証を行う取組み。	

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
北海道	士幌	農業マーケティング学習	アグリビジネス科 フードシステム科	地域の企業や役場ともに地域の特産品を創るプロジェクト
		農業先進技術活用学習	アグリビジネス科	ドローンや自動操舵トラクターの活用を通して地域の産業人の育成を図っている。
		HACCP 関連学習	フードシステム科	HACCP 認証の取得を通して、安全安心な食品づくりに取り組み、食品衛生に対する理解を深める。
	更別農業	自動操舵トラクターでひまわりアート作成	農業科・生活科学科	創立 70 周年を記念し、スマート農業技術で「ひまわりアート」を作製しました。播種は GNSS を活用した自動操舵トラクターで行い、2 種類の種子を使うことで文字や校章を描きました。地域に開放し、景観を楽しみました。
	静内農業	商品開発	食品科学科	地元自治体、企業と連携して地域の特産となる商品を開発。地域資源の(農、水産物、企業、施設、人)の学習し、生徒が商品企画を立案、試作し地元企業が実際の商品として販売する学習を行っている。
		新規就農に関する学習	生産科学科	生徒が新規就農を具体的に目指すことができるよう、自治体や企業、団体と連携し、就農までのロードマップを理解したり、ロールモデルの取り組みから就農後の取り組みを理解する取り組みを行っている。
		景趣な生産に関する学習		競走馬の種付けから分娩、販売までの一連の流れを学習する取り組みを行っている。日本で唯一の取り組みである
	富良野緑峰	小学校農業体験学習	園芸科学科	3 年生と小学 3 年生が地域でも産出額の大きいタマネギ交流学習を実施、定植、観察、収穫を生徒が指導し、ともに学習する。
		保育園・幼稚園との交流		2 年生と幼稚園年長クラスが、ジャガイモの植え付け、収穫、収穫後の交流会を生徒主体で実施。
		商品開発・地域特産物に係わる、実習、プロジェクト		実習生産品であるトマトジュースを地域ブランド商品の認定を取得した地域特産物のワインを製造できるワインの絞りかすを利用した商品開発や、オムカレーで地域の農産物の消費拡大を目指したプロジェクトを実施。
地域団体との連携		地域の老人ホームへ出向き、入所している方と花壇の植え付けを実施。		
企業連携		企業と連携し 酸素水を用いた野菜栽培研究の実施。		
名寄産業	ESD ファーム	酪農科学科	地域の子どもたちに本校生徒が農業をとおして、持続可能な開発のための教育ファームを開設し、豊かな食、環境、暮らしなど伝えている。	
青森	三本木農業・三本木農業恵拓	農場開放学習	学校全体	幼稚園児(保育園児)・小学生の農業体験学習を年間約 1,500 人ほど受入れている。その際、生徒がファームナビゲーターとして農場を案内している。
		命の花プロジェクト	動物科学科	殺処分されたペットの骨は事業系廃棄物であり、土に返ることもできない現状がある。そこで、殺処分の現状を多くの人に知ってもらう目的で、骨を混ぜた土で花を育て花としてもう一度命を咲かせる活動を行っている。
		地域連携事業(きみがらスリッパ等)	植物科学科	十和田きみがらスリッパ生産組合と連携し栽培・研究活動に取り組んでいる。地域の伝統工芸品を守り、地域活性化に貢献している。
		アンテナショップ	学校全体	原則、木曜日に本校生産物を地域の方に販売している。令和元年に 20 年目を迎えた。農業経済科の販売実習も兼ねている。
		農可尊熟(のうかさんじゅく)		農業や環境・地域の諸問題に関する自主的な学習会で、生徒の問題意識と表現力を高めるとともに、地域の期待に応え地域をリードし、ICT 化やグローバル化に対応できる人材を育成する目的で行っている。農業科の生徒だけでなく、統合校「三本木農業恵拓高校」普通科の生徒も参加している。
	五所川原農林	GLOBALG. A. P. 認証取得	全学科	2015 年世界初の高校生による取得から継続して取得を続けている
		アグリマイスター顕彰制度		全国で最もアグリマイスター顕彰制度取得生徒の多い高校に送られる表彰を 5 年連続で取得している。
		FSC の取得	森林科学科	2017 年度から本校実習林での世界認証の取得を継続している
	柏木農業	GLOBALG. A. P. 認証取得	生物生産科・りんご研究部	本校では、国際的な次世代農業経営者を育てるため、りんご研究部は「りんご」で、生物生産科課題研究作物班は「コム」で、GLOBALG. A. P. 認証取得に向けた活動を展開しています。
	名久井農業	農作業支援活動	全学科1年	農業の仕事を現場で体験し、地域の方々と交流することを目的に、3~4名のグループで一日を農家で過ごす。春と秋の2回実施。
海外研修		全学科	隔年で派遣と受け入れを実施する。R1 は米国マサチューセッツ州ウエストポート海外研修。姉妹校提携を結び相互交流。(現在中断)	
弘前実業	りんご新品種の普及活動	農業経営科	弘前実業高校藤崎校舎から引き継いだりんご新品種「初恋」の栽培と普及について	
岩手	盛岡農業	家畜改良における体型審査	動物科学科	2008 年度から日本ホルスタイン登録協会の体型審査を受け続け、生徒と教員等が世話をし交配を重ねてきた結果、乳房の形質や骨格など各部位、その牛が生産にわたり高い泌乳能力を発揮できるとしてエクセレントを獲得した。
	水沢農業	第 12 回全国和牛能力共進会鹿児島大会出場	農業科学科	7 月 27 日に行われた岩手県学校農業クラブ連盟大会家畜審査競技に本校の畜産専門分会の生徒が参加した。この大会は、第 12 回全国和牛能力共進会鹿児島大会特別区への出場権をかけた大会であった。最優秀賞を受賞し、鹿児島全共の切符を手にした。
	千厩	清庵の里事業プロジェクト	生産技術科	郷土の偉人である建部清庵を顕彰する団体が行っている菜の花プロジェクトという、一関の花である菜の花を育て、プランターで市内に飾る活動を共同で行っている。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
岩手	大船渡東	春のスプリングフェスタ	農芸科学科	本学科及び農場で学んでいる内容を保護者や地域の方々に広く理解していただき、販売実習を通じて、マーケティング技術を習得できるよう主体的、実践的な能力と態度を養成するため交流を深めている。
		サツマイモ交流		交流会は、作物・野菜栽培学習の一環として、大船渡農業高校時代から続く、恒例行事。生徒と立根こども園の園児が6月に苗植え、秋には収穫を一緒に行うことで交流、親睦を図っている。
		ツバキ交流		気仙光陵支援学校高等部1年生と本校1年生がツバキ(昭和の誉:白色花)の挿し木の学習を行い、本校で3年間育苗管理し、支援学校の卒業式までには開花苗を供給している。
	一戸	商品開発	総合学科	本校農場産トマトを使ったジャムづくりを昨年度から行っている。
環境保全活動		ウルシの短期間育苗技術の確立について研究しており、一戸高校産ウルシ苗の市販化に繋げる取り組みを行っている		
宮城	伊具	棚田の保全活動	総合学科	日本の棚田100選に選ばれる大張沢尻の棚田の管理実習に年に7回ほど出向いて実施している。
	加美農業	ムラサキ栽培	農業科	地域連携。ムラサキ(多年草の植物)は 生薬など幅広い活用が出来る植物。発芽率の向上や苗作りの実践。
		獣害対策地域連携学習	農業機械科	地域連携。全国的にも問題になっている鳥獣害対策。
		小瀬菜大根研修会	生活技術科	地域連携。「小瀬菜ダイコン」という在来野菜のダイコンの保護と活用の検討。
	農業	芋掘り遠足	生活科	本校のサツマイモ圃場で、宮城県内の幼稚園・保育園・こども園などが延べ 4,000 人本校で芋掘り遠足を実施している。生活科の生徒は保育士志望生徒もおり高い学習効果がある。
	南郷	マイクロバブルを使用したシクラメン栽培	産業技術科	マイクロバブル水を与えて栽培したシクラメンの成長変化を対照区と比較・研究
亘理	商品開発	食品化学科	【地域連携】山元町と連携し、イチジクグミとイチジクのクリームチーズを開発して山元町のブランド認証品として認証された。亘理町の郵便局と地元菓子企業の「みやぎのあられ」と連携し、新商品の開発と販売をおこなった。	
秋田	大曲農業	湯の花を活用したガラス忌避キット開発	農業科学科	地域の温泉で廃棄される湯の花を活用し、ガラスからリンゴを守る忌避キットを開発した。使用済みの牛乳パックから取り出した和紙に湯の花水を染みこませて作成した。
		農業塾とこども食堂のコラボ		地域のこども食堂とコラボし、本校の生産物を利用した弁当の製造・配布と、農業学習を組み合わせたイベントを開催。
		脱プラ農業の普及活動		海洋ゴミ削減に取り組む日本財団と連携し、地域農家と共に脱プラ農業に挑戦し、データの蓄積に取り組んでいる。
	金足農業	農業関係インターンシップ	生物資源、造園緑地	学科の特長を生かし、県内外の野菜農家、酪農、肥育農家、造園会社への長期インターンシップを実施
	秋田北鷹	森林バスターズ	緑地環境科	森林に手入れができなくなっている高齢者が所有する山林に対し、間伐等の森林保育作業を行うボランティア活動。
	能代科学技術	スマート農業	生物資源科	リモート水田水管理の実践
		広報活動	生物資源科・生活福祉科	生徒取材による地元 JA への活動レポート掲載
	増田	プロジェクト活動	農業科学科	地域の伝統食材である「てんこ小豆」を生産し、保存・継承・活用するプロジェクト
農業体験交流学習		本校生徒が指導役を務め、小学校5年生および地域の方々と交流しながら、米作りの作業を通して年間5回学習		
知的財産教育		知財力開発校支援事業の指定を受け、知的財産教育を通して地域資源の活用等に取り組む活動		
庄内農業	農福連携プロジェクト	食品科学	福祉センターと連携し、年 6 回程度、地域の高齢者、知的障がい者、小学生と野菜栽培や花植栽等に取り組んでいる。	
	うどん大作戦	食料生産科、食品科学科	加工実習で製造した生うどんを地域のドライブイン・食堂等からメニュー化して商品化して頂き、地域の方々から食して頂いている。	
山形	置賜農業	ICT農業の研究		ドローンによる水稲直播及び管理作業への活用から省力化を図っている。
		町の特産紅大豆を使った町おこし		有機JAS認証を目指すと共に特産品開発の材料となる紅大豆を生産し町に提供することで、地域の活性化を目指している。
		生乳加工品の開発		地元宿泊施設と連携し、本校のバターやチーズなどの加工品を提供することで特色化の手助けを行っている。
		希少生物の保護活動		岩手、新潟、山形の一部に生息するチョウセンアカシジミを保護するために、トネリコの木管理を通して保護活動を行っている。
		地域伝統食品の研究		冬季間のたんぱく源として食されていた「むくり鮎」は時代の流れと共に忘れられており、生徒の活動から地域の食材として見直されてきた。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
山形	置賜農業	新機能性植物の研究		空気清浄作用がある「ニオイ木」をバイオテクノロジーの実習を通じて、増殖を図っている。
		MPS 認証ウィルスフリーダリアの海外輸出		花卉版 GAP である MPS 認証を受けた安全な施設で催場されたダリアを、世界各国のお客様に提供できる販路の拡大を目指している。
福島	福島明成	GAP 教育	生物生産	JGAP 認証 25 品目
	安達東	恩返しプロジェクト	総合学科	本校ゆかりの地で花壇の植栽活動を行っている。
	岩瀬農業	GAP 認証の更新・及び新商品開発	生物生産科・園芸科学科・ヒューマンサービス科	グローバル GAP 認証18品目継続審査・JGAP 畜産物の更新及び GAP 食材を使った新商品開発。 JGAP畜産物・鶏卵を使ったプリン作成。
	白河実業	ふれあい農園	農業科	地域の住民の方々に本校圃場の一部を開放し、本校農業科生徒と共に栽培学習をととした交流活動を実施している。
	会津農林	GLOBALG. A. P. 認証	農業園芸科	平成 30 年度より GLOBALG. A. P. 認証。現在はコマ・ソバ・カボチャの3品目で認証。
神奈川	三浦初声	産農人プロジェクト	都市農業科	地域農業生産者や商工会議所と連携し、6 次産業化に向けた教育活動を実施。
		パイロットプロジェクト		県内の専門学科(農・商・工)高校と農業生産者が連携し、共通の課題解決に向けたプロジェクト学習を実施。
	平塚農商	ビーツカレー開発プロジェクト	食品科学科・農業総合科・商業科(総合ビジネス科)	地域農業生産者・観光協会と農業科・商業科との連携、商品開発に向けた活動を実施。
	相原	オリジナル畜産物の開発と普及活動	畜産科学科	企業と連携し牛乳、牛肉、豚肉、鶏卵に加え、アイス、レトルトカレー、グラタン、プリンなどの加工品を本校直売所、有名デパートなどで販売・普及を行っている。
		地域への食育活動	食品科学科	地域の小学生などに、地元名産酒まんじゅうづくり教室やお菓子作り教室を開催し、食育活動を行っている。
		近隣病院の門松づくり	環境緑地課	近隣病院への門松づくりを行っている。
埼玉	熊谷農業	G-GAP	生物生産技術科	トマトの抑制栽培にて令和 2 年度、令和3年度に G-GAP を取得
		商品開発(ブドウシロップ)		果樹の授業で栽培しているブドウを使い、シロップをつくり、「雪熊」という名前で作り市内のかき氷屋におろしている。
		六次産業(くまのうアイス)	生物生産工学科	校内で搾った牛乳と飼育している鶏から取れた卵を使い、くまのうアイスを製造。学校の販売所やイベントで販売
	川越総合	三富新田落ち葉掃き	総合学科	日本農業遺産の認定されている三富新田で落ち葉掃きを行い、環境保全型農業を学習する。
	秩父農工科学	チャレンジショップ	農業科	秩父市と連携し市内の古民家を利用し農産物の販売を定期的に行っている。
		演習林での実習と樹木採集	森林科学科	東京大学秩父演習林において樹木採取50種を行っている。
「第3の密」の機能性食品の研究		食品化学科	「第3の密」調査・研究・販売を行っている。	
千葉	成田西陵	日本茜復活プロジェクト	園芸科	植物染料である日本茜を栽培し、伝統文化の継承活動を行っている。
	旭農業	カレープロジェクト	園芸	本校で生産した豚肉や地元産野菜を活用し、企業と連携したカレーの商品開発。
	大網	エゴマの商品開発	食品科学科	エゴマの機能性成分に注目し、自然栽培の確立・商品開発の研究に取り組んでいる。市と連携し特産品化を目指す。
		ハマボウフウの保全活動	生物工学科	白里海岸の絶滅危惧種であるハマボウフウの再生・保全活動を地域と連携して取り組んでいる。
	安房拓心	全国和牛能力共進会	総合学科(畜産系列)	第 12 回全国和牛能力共進会出場に向け千葉県代表として頑張っている。繁殖農家・高校間連携で子牛を生産する取組みは他県でも例が無いとのこと。
		イタリア野菜・安房地域の在来枝豆を普及させる地域活性化運動	総合学科(園芸系列)	地域の在来枝豆とイタリア野菜を普及し地域活性化を目指す活動。今後は他学科と連携し6次産業化に向けた活動を行っていく予定である。
君津青葉	中山間ふるさと活性化チャレンジ事業	総合学科農業系列	学校農場に出没する有害鳥獣の状態を把握する。「命の授業」として猪等の動物の解体体験や講義を実施する。	
茨城	大子清流	ドローン講習会	農林科学科(森林科学コース)	農業機械の中で、ドローン講習を行い、ドローン回転翼 3 級の資格取得を行っている。
	水戸農業	規格外農産物活用	農業科・園芸科	規格外イチゴをおりこんだ生パスタ商品の開発と普及活動。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
茨城	石岡第一	ホテルレイクビュー水戸 実習	造園科	レイクビュー水戸ホテルにおける刈り込み・環境整備実習
	真壁	GGAP 認証	農業科 農業・環境緑地科	GLOBALG. A. P 認証に向けて稲荷原農場の環境整備や記録簿の整理、水質や土壌の検査等、安心安全な農産物を生産する工程管理を徹底管理し、2022年3月14日にシャインマスカットの更新に加えて新たにイチゴの認証を取得した。
		ヤマザクラ調査	環境緑地科 農業・環境緑地科	地元のヤマザクラを樹木医である社会人講師と共に調査し、その結果に基づいて保護・保全活動を行うことで、知識や技術を身に付けることができ、地域資源に関する興味・関心を高める。
		地域の伝統文化体験	食品化学科	地域の老舗和菓子職人を招いての実習を実施することにより、地域人材を活用した伝統文化を体験することができ、地域理解にもつながる。
鉾田第二	ホコノッコ・ファンクラブ	農業科・食品技術科	ホコノッコ・ファンクラブという学校独自のブランドを立ち上げ、販売品にラベルを掲示し、販売している。時々礼状を頂くことがあり、せいとの意欲に繋がっている。	
栃木	宇都宮白楊	宮レモンを使った食品開発	食品科学科	宇都宮市ではレモンを栽培している農家があり、宮レモンと名付けブランド化をめざしている。本校は地域の人たちと連携をしながら、このレモンの知名度を上げるために、商品開発を行っている。
	鹿沼南	オタネニンジンへの生育調査と組織培養	環境緑地科	朝鮮ニンジン(お種ニンジン)は昔から鹿沼市板荷地区を中心として栃木県内で栽培していた歴史がある。しかし、現在まで当時の栽培方法や品種で継続している人は高齢の農家さん一人となってしまった。そこで、鹿沼市役所や宇都宮大学、鹿沼南高校が中心となり、種の増殖や保存をするための活動が始まった。
	栃木農業	学校給食への食材提供	全学科	市内小中学校への給食食材提供を定期的実施している。その中でも、「栃農給食DAY」として、学校産の食材をふんだんに利用した給食の日を設定して、小中学校の食育を推進している。昨年度は、本校食材利用率 58%の給食を実施した。
	那須拓陽	拓陽キスミル	食品化学	本校と那須塩原市が連携して生産した生乳と乳酸菌から乳製品を開発し、地域の小中学校1万人へ提供している。
		A2牛乳	農業経営科	生乳の中のタンパク質 β-カゼイン A2 が含まれている牛乳を生産。
大豆プロジェクト		生物工学科	大豆を生産を通して、農福連携、農工連携、6次化商品製作を行う。	
群馬	勢多農林	ASIAGAP 取得	植物科学科	キュウリ、トマト、日本なし、米で ASIAGAP を取得。構築した生産・流通についての仕組みを学習活動に取り入れている。
		地域資源の保護活動	バイオテクノロジー科	藤岡市鬼石「冬桜」の保全、神流町「アワバタダイズ」「あかじゃが」の生産に関する研究活動を行っている。
		農場 HACCP 取得	動物科学科	高校では初となる農場 HACCP(養豚、養鶏)を取得。養豚は JGAP も取得し、構築した生産・流通についての仕組みを学習活動に取り入れている。
		技能五輪全国大会	緑地土木科	技能五輪全国大会の造園職種に 13 年連続出場している。
		商品開発	食品文化科	製菓店と共同で「桑の葉パウンドケーキ」の商品開発を行っている。
		花繭の作品制作	グリーンライフ科	繭で花を制作し、コサージュ、ブーケの作品に利用している。
	利根実業	「沼須ねぎ」の保存・普及活動	生物生産科	沼田市沼須地域の伝統野菜である「沼須ねぎ」の保存・普及活動
		和牛プロジェクト活動		和牛の生産から消費までを体系的に取り組んでいる
		企業との商品開発		みなかみ町「ジャック・ザ・タルト・ファンタジー」との連携による「えだまめチーズタルト」の商品開発
		地域農業者との商品開発	利根沼田地域の6ブランド米を「戦国米セット」として商品化	
お米の消費拡大		ホワイトデーにお米を贈るキャンペーンの実施		
そば打ち活動		そばを用いたイベント、ボランティア活動と共に全国高校生そば打ち選手権大会、全国高校生そば打ち大会への出場、段位取得を行っている		
医療従事者に花を贈る活動		グリーンライフ科	コロナ禍で多忙を極める医療従事者へ向け、花を贈る運動を行っている	
地域伝統工芸活動			利根沼田市の伝統工芸である縄織、陶芸、ガラス工芸、天狗面、桐下駄、カスターネット、わななどを専門者から修得し、地域に普及させる活動を行っている	
そば殻を基材としたキノコ栽培	そば殻等廃棄されてしまう資源をキノコ培地として使用し、適正培地の創出を行う研究を実施している。			
炭焼き窯の再生	炭焼き窯を再生し、林産物の利活用を目指している。			
伊勢崎興陽	6次産業化プロジェクト	総合学科	私たちは総合学科の強みを活かし、6系列それぞれの魅力ある学習成果を連携させたプロジェクトを立ち上げた。これは、私たちが育てた「興陽野菜」をピクルスに加工し、オリジナル商品を地域に提供するものである。	
吾妻中央	全国和牛能力共進会の参加	生物生産科	生物生産科では、和牛を飼育しており、以前より、改良を続けてきた。改良の成果が表れ、令和4年に開催される第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会の群馬県予選を突破し、特別区「高校生及び農業大学校」の出場することが決定している。	

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
群馬	吾妻中央	学校産の生乳を使用したレアチーズの商品化	生物生産科	地元のJAと連携したレアチーズの商品化に取り組んでいる。このレアチーズは学校産の生乳を使用しており、現在、地域のJAの直売所や道の駅を中心に約20店舗で販売している。また、ふるさと納税返礼品にもなっている。
		群馬県育成品種の栽培と6次産業化		群馬県育成品種である「あましずく(トマト)」や「やよいひめ(イチゴ)」などを本校で栽培し、地域と連携して知名度の向上について取り組んでいる。また、これらの野菜を使用して地域と連携して6次産業化にも取り組んでいる。
		リンゴ粕の活用に関する取組み		地域のJAで製造されているリンゴジュースの廃棄物であるリンゴ粕の活用に関する研究活動である。現在は、リンゴ粕をドライ化して飼料化する研究をしているところである。
		老朽化水路の管理データ作成及び補修	環境工学科	吾妻農業事務所農村整備課、美野原土地改良区と連携し、測量技術やドローンを活用して美野原地区一帯の農業用水路、農道を含めた地形図作成、水路管理データベース作りを支援
		地域交流		地域観光地等における椅子・テーブルや景観配慮ブランタカバーの寄贈・設置、行灯づくり・希少植物の栽培展示による地域おこし活動
	大泉	茂林寺沼湿原における保全活動	グリーンサイエンス科	「茂林寺沼湿原」は日本遺産に指定される貴重な低地湿原で、乾燥化や外来植物の侵入により、貴重な在来種の生育が脅かされている。カキツバタの増殖研究、外来植物の調査、湿原の重要性を伝える活動等に取り組む、茂林寺沼湿原の環境保全を目指している。
	藤岡北	商品開発	生物生産科	米粉を利用したパンの商品開発に関する研究
環境保全		環境土木科	庭園製作・デザインに関する研究	
福祉活動		ヒューマンサービス科	公共施設等への草花植栽および介護職員初任者研修	
山梨	農林	県農大との連携授業	システム園芸科	学校設定科目「地域と農業Ⅱ」において、県農業大学校と連携した授業を行う。
		マイスター・ハイスクール事業	食品科学科	文部科学省新規事業。学校設定科目「ワイン学」を核に、ワイン県やまなしの地域資源を活用した授業と若手人材育成を目指す。
		デュアルシステム	造園緑地科・森林科学科	授業として、専門業者の仕事を長期間にわたり就業体験する。長期のインターンシップ。
	笛吹	台湾ブドウ輸出	果樹園芸科	平成31年度から生徒が栽培管理したシャインマスカットを台湾スーパーで販売とPR活動を実施してきたが令和2年度から新型コロナ感染拡大により現在も活動は休止状態で、一日も早い再開を望んでいる。
		AGAP		平成29年にJGAPを取得、令和2年にはブドウの台湾輸出からAGAPを取得しGAPに取り組んでいる。
		ワイン醸造	食品化学科	平成24年に科目「ワイン製造」を設置し製造量を増やした。現在は原料を同校圃場で栽培し安定供給している。
静岡	田方農業	有機JAS認証	生産科学科	野菜、コメの有機栽培を通じて安心・安全な栽培を啓蒙している。
		静岡県版GAP、HACCP認証	動物科学科	畜産における静岡県版GAPおよび乳製品の静岡県版HACCPの認証を通して生産管理工程について学習している。
	富岳館		総合学科	JAや地元企業と連携し、未利用資源の活用や商品開発に取り組んでいる。また、研究機関と連携しより良い農産物の栽培方法を研究し、JAのサポートで和牛のブランド化にも取り組んでいる。
	遠江総合	草花装飾	総合学科	町の玄関、天竜浜名湖鉄道遠州森駅の草花装飾による地域の活性化
	磐田農業	緑化運動	生産科学科・環境科学科	磐田市内の公園花壇の手入れ、プランターの設置。校内バラ園の地域公開等を実施している。
浜松湖北	湖北MAGIC	普通科、産業マネジメントⅠ～Ⅲ科	普通科と産業マネジメント科(農業・工業・商業)の生徒が専門分野を活かして連携して「ものづくり」と地域貢献などを目指す活動	
新潟	村上桜ヶ丘	G-GAP認証	総合学科	3項目のG-GAP認証とGAPの考えを学び、地域農業の問題解決につなげる。(例:農作業事故を防ぐための啓発運動につなげた。)
	長岡農業	プロジェクト学習	食品科学科	地元のブドウ栽培団体と連携し、収穫したブドウをワインとして加工している。
	高田農業	G-GAP認証	生物資源科	G-GAP認証取得に向けて取り組んでいる。
	佐渡総合	ネリカ米の栽培・提供	総合学科	生徒がネリカ米を栽培・調査し、収穫した米をアフリカの孤児院へ提供するとともに、栽培マニュアル棟を提供し、オンライン会議形式で交流会も行った。
	新発田農業	新発田市との連携事業	生物資源科 環境科学科	新発田市の健康長寿アクティブシニア推進事業において、新発田農業高校生とが講師となり、 ①野菜苗の寄せ植え、栽培体験 ②フラワーアレンジメント製作体験 ③しめ縄飾り作り体験 以上の体験活動を通し、高齢者の社会参加、生きがいづくりに貢献する取組。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
富山	上市	特定外来生物駆除活動とミヤマシジミ保護活動	総合学科グリーン分野	すでに絶滅したミヤマシジミを上市川に復活させる取組みとして、手始めとして特定外来生物のオオキンケイギク等の駆除実施している。また、食草のコマツナギの増殖に取り組んだ。まだ生息が確認されている常願寺川河川敷にて、無灌水でコマツナギを栽培可能な高分子吸水体を配合した用土を開発し、プランターを設置している。発生が確認されたら防虫ネットで被覆し天敵から保護する予定である。
		生菓の原料になるミヤマサイコの栽培試験		ミヤマサイコはトウキに次ぐ生菓の原料でその殆どが中国からの輸入に頼っているコロナ禍で輸入コストや供給不安定に成っている。富山県では1983年以降記録がなく野生種絶滅状態である。元々上市高校周辺に自生していたことから栽培可能と考え、薬用植物指導センターより種を提供してもらい、発芽率の改善や新たな作型の栽培試験を実施している。慣行栽培では5月に播種して収穫は翌年の秋と2年かかるが、プラグトレイで育成した苗を5月に定植することで1年で収穫することを目標としている。
石川	能登	能登キリシマツツジの保全	地域産業科	石川県でも能登地方の生育されている能登キリシマツツジの保全活動を地域のNPO法人のキリシマツツジの郷と協力して行っている。
	津幡	養蚕復活プロジェクト	総合学科	養蚕の実践、桑の栽培、シルク・桑を用いた商品開発、普及啓発活動
		トキの普及啓発活動		トキの普及啓発活動、学習交流活動
翠星	HACCAP 活動	総合グリーン科学科	HACCAP 認証の取組み	
長野	下高井農林	伝統産業「小沼ほうき」伝承の取組み	グリーンデザイン科	地域の伝統産業である「小沼ほうき」に注目し、小沼ほうき振興会とともに、商品化や情報発信に取り組んでいる。
		シブガキ応援隊		木島平村内で、熊の出没の原因となっている放置された渋柿の収穫活動を、シブガキ応援隊と称し北信地域振興局と合同で実施。
		そばによる地域活性化	アグリサービス科	休耕田でのそば栽培から、加工・販売までの6次産業化に挑戦。飯山市のふるさと納税返礼品に採用された。
		地域活性化プロジェクト	グリーンデザイン科	木島平村と協働で村の観光振興に向けて取組みを行う。高校生がガイドをするウォーキングプランなど具体的な提案を行い、観光客の倍増による地域経済の活性化に取り組んでいる。
	須坂創成	地域の緑化活動	環境造園科	長野市内の自治区内のポケットパークの設置において、その在り方を自治区住民と造園クラブ員が意見交換をしながら、住民が求めるポケットパークの在り方を一緒に考え、ポケットパーク施工にも参加した。また、近隣の臥竜公園における桜の樹勢回復事業を地元の方と共同で実施した。
		高山村ワインぶどう研究会	食品科学科	高山村が主催する研究会(生産・醸造・振興部門)に県外も含め募集により応募した会員とワイン産業の振興を目的に情報や技術の交流を行う。
		カンナプロジェクト	園芸農学科	平和の象徴としてのカンナを広めることをとおして平和を訴える活動に協力。本校はカンナの株増殖などの協力をしている。
	更級農業	竹パウダーを活用した土壌改良	施設園芸科	地元地域の放置竹林で伐採された竹をパウダー状に加工し、野菜栽培に活用している
		伝統野菜の栽培		地域の伝統野菜である「小森ナス」の栽培に取り組む、保存や啓蒙活動に取り組んでいる
		遊休農地を活用した綿の栽培	グリーンライフ科	地域の遊休農地を活用しつつ原風景を守るために、以前に栽培されていた綿栽培に取り組む、農地の維持と新たな特産品の開発に取り組む
	佐久平総合技術(浅間キャンパス)	植物工場を利用した研究	食料マネジメント科	信州大学先進植物工場教育センターの大学の先生方の指導を仰ぎながらLED光源下における薬用野菜の栽培を実施している。
		薬用ニンジンを用いた植物工場での基礎研究		薬用ニンジンを植物工場で育てる基礎研究として、地元の薬用人農家のアドバイスをいただきながら、プランターでの栽培について取り組んでいる。
酒造会社との連携事業		サツマイモの栽培を担当し、その原料を使った芋焼酎の製造及び販売準備等を学ぶ。		
野菜苗の販売		春にはトマトやナス等、秋には玉ねぎ苗の栽培及び販売実習を実施。		
無人販売所の設置		年間を通じ、学校前にて無人販売所を設置。主に野菜販売であるが、季節によっては草花苗等も販売。		
酒粕の堆肥化研究		酒粕の有効利用の一環として、堆肥化を検討。食品ロス削減に向けた取組を実施。		
竹パウダーの活用		竹パウダーの土壌改良剤としての有効性をコーヒー粕の混合等により研究。		
大豆100粒運動		大豆100粒運動への参加。大豆の栽培および収穫を行い、その大豆を用いて小学生と交流(豆腐の製造)を実施。		
中間山地域におけるキャベツ収穫機械化体系実証コンソーシアム		スマート農業の取組みの一つとして、キャベツの収穫機械の講習会への参加		
伝統野菜の古太キュウリの栽培		地元の佐久古太キュウリ保存会にアドバイスをいただきながら栽培し普及・研究に取り組んでいる。		
水耕栽培システムを利用した夏秋イチゴの栽培研究	地元イチゴ農家のアドバイスのもとに高冷地の栽培に適している夏秋イチゴの栽培に取り組んでいる。			

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要	
長野	佐久平総合技術(浅間キャンパス)	牛とのふれあいと搾乳体験	食料マネジメント科	小学生を農場に招き、牛のブラッシングや搾乳を体験してもらう取組み。	
		牛乳の加工		牛乳をチーズ各種、アイス、バター等に加工する方法について、知識と技術を学ぶとともに、他学科の先生方にその成果を説明する機会を作っている。	
		肉加工		豚の飼育について学び、ハムやベーコン、ソーセージ、ジャーキーなどの加工についての知識や技術を学ぶとともに、他学科の先生方に向け説明をする機会を作っている。	
		フラワーアレンジメント実習	生物サービス科	地元の花農家で栽培された花材を使用したフラワーアレンジメント教室を地域振興局やJAの協力のもと実施。	
		地域花壇への植栽		市民交流ひろばの花壇の一角を園芸ボランティアの方とともに担当。花苗の栽培・提供及び植栽を実施。	
		ウェルカムフラワー		小学校と連携し、春と秋に新幹線駅の通路にプランターに植えた花を設置。	
		花束の販売		過去におこった大水害の犠牲者を追悼する行事に合わせ、菊等を栽培し地域に販売。	
		アサガオ芋の栽培		緑のカーテンと食用の植物の栽培を通じて、土地の有効利用について学ぶ。	
		盆花販売		お盆の花市に合わせ切り花の生産から加工、販売まで一貫して学ぶ。	
		太陽光電池に関する高大連携		近隣の大学(工学系)と連携し、有機PV下における草花の栽培環境条件について研究。	
		ヒツジ飼育を通した高大連携		近隣の大学(福祉系)と連携し、大学敷地内で本校から貸し出したヒツジを飼育。	
		鶏卵販売		数種の鶏を飼育し、校外外に向けた鶏卵を販売。	
		鶏の解体実習		鶏の飼育及び解体、加工等を実習を通して学習。	
		動物のふれあい体験		ヤギやウサギなどのふれあい体験を小学生を対象に実施。	
		関連資格の取得		愛玩動物飼養管理士、実験動物技術者2級の資格取得。	
		地元食堂との連携事業		食農クリエイト科	学校産農畜産物、加工品のみを使ったお弁当作りを通して、学校の特色や学習活動を発信。
		酒造会社との連携事業			地元酒造会社と連携し、日本酒製造時に出る酒粕の有効利用を検討。
		地元食材フナの飼育			地元食材であるフナを飼育し、地域に向けた販売活動を実施。
		酒造会社との連携事業	近隣商業科生徒と本校生徒と一緒に酒米を作り、その酒米を利用した日本酒の製造及び販売準備等を学ぶ。		
		建設業者への現場見学	建設業協会と連携し、進路実現に向けた現場見学を実施。		
		自動車整備教室	自動車整備振興会による自動車整備教室を実施。		
		ラーメン屋との商品開発	地元ラーメン店と連携し、地域食材を使ったラーメンのレシピ開発を実施。店舗での販売や「ラーメン甲子園」への参加を行っている。		
		パン屋との商品開発	地元パン屋と連携した商品開発および販売。		
		洋菓子店との商品開発	地元洋菓子店と連携した商品開発および販売。		
		菓子問屋との商品開発	地元菓子問屋と連携して米粉を使った和菓子(どら焼き等)を開発し、販売。		
		こんにやくを使ったレシピ開発	社会福祉法人「佐久コスモスワークス」と連携し、「こんにやく(ゆず味、レモン味、七味味等)」を使ったレシピ開発を実施。レシピをまとめたリーフレットの配布や道の駅内のカフェで提供を行っている。		
		ウメジャムの開発	地元社会福祉法人から原料の提供と加工依頼を受け、ウメジャムを製造・販売。		
		洋菓子講習会	パティシエを招いた技術指導。		
		調理師講習会	調理師を招き、年に3回(和・洋・中)の講習会を実施。		
		特別栽培米の生産	水田にフナを養殖しながら稲を栽培する「フナ米」の生産に取り組んでいる。毎年、「全国農業高校お米甲子園」に出品。		
		野沢菜を使った商品開発	地元漬物屋と連携した商品開発および販売。		
		商業高校との連携	みその製造実習。商業高校販売会への出店。		
		知的財産権の学習	知的財産権の学習と商標登録。		

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
長野	佐久平総合技術(浅間キャンパス)	米飯食味鑑定士養成講座	食農クリエイト科	米・食味鑑定士協会主催の講座への参加と米・食味官能鑑定士の取得。米・食味分析鑑定コンクールで炊飯スタッフを担当。
		食品工場見学		サンクゼール、久世福本店
		農産物販売会	全学科	学校で栽培した野菜や花、加工品を地域の方に販売。
		コース週間		4日間のインターンシップ期間を設け、農家や食品メーカー等の事業所にて実習。
		花いっぱい運動		農業クラブ生徒及び希望者(工業科生徒を含む)が市役所や JR 等と協力し、最寄り駅の花壇植栽を実施。
		小学校交流		小学校と連携し、田植えや生き物観察、ダイズの栽培と加工等、コース授業と連携した交流活動を実施。
		しなの鉄道沿線駅での販売		しなの鉄道沿線駅で実施している朝市に全学科が交代しながら、農産物や加工品を販売。
		搾乳実習		毎日の搾乳を全学科生徒が当番制で実施。コロナ前には宿泊を伴い朝・夕に実施していたが現在宿泊は休止中。
		佐久市ゼロカーボン事業		佐久市のゼロカーボンナビゲーターとして、市内で取り組まれているゼロカーボンの取り組みを取材し、Youtube やラジオ等で紹介。
		NAGANO SDGs PROJECT		3年生を対象に、SDGs と関連させた課題研究を実施。SDGs 宣言や研究収録への掲載等を通して、取組みを発信。また、生徒が講師となった SDGs 学習会を行うなど、SDGs の推進に取り組んでいる
		農作業ボランティア		ボランティアとして、モモ農家の摘果作業に参加。
		星煌祭(学科展)		各学科や農業クラブの活動を展示。農業鑑定競技体験会などを実施。
		コーヒー粕の有効活用	コーヒー粕活用に向けた取り組みをコーヒー会社(スターバックス)と連携し、各学科の特色を生かした研究を実施。	
		演習林実習	森林組合を外部講師として招き、演習林の整備や環境保全学習を実施。	
		アグリマイスター顕彰制度	各種検定・資格取得や農業クラブ活動の推進。「学校表彰」「理事長賞」を受賞。	
		SDGs 推進活動	3年生を対象に、SDGs と関連させた課題研究を実施。「NAGANO SDGs PROJECT」での SDGs 宣言および報告、研究収録への掲載等を通して取り組みを発信。また、生徒が講師となった SDGs 学習会を行うなど、SDGs の推進に取り組んでいる。	
		草花圃場自動灌水装置の検討	工業科との連携	草花圃場を遠隔で管理しながら自動で灌水ができる装置を検討。総合技術高校として工業科が主体となって研究。
		フナの酸素濃度測定装置の検討		地元伝統食を支えるフナの飼育に関し、酸素濃度の測定システムを構築。総合技術高校として工業科が主体となって研究。
		佐久藍染の復興	創造実践科	地元の呉服店と連携し、藍の栽培および藍染めについて学び、地域振興につなげていく。
		機織り・ぼろ織(さき織)を文化財に		佐久の地域に残る機織りの文化を守るため、地域の機織り愛好家の方たちの協力のもと、技術の伝承を目指す。
	地元造園会社と連携	造園技能検定合格に向けた技術指導や竹垣づくりなどについて、造園会社と連携をして授業を行っている。		
	廃ハウスを利用したキノコ栽培	使用されていないビニールハウスを利用し、キノコの菌床栽培を行うことでハウスの有効利用の方法を検討する。		
	駒打ち体験・原木販売	林産物の利用について理解を深めるために、地域の方々を対象とした駒打ち体験教室や原木の販売を行っている。		
	環境負荷の低減を目指した野菜栽培	微生物資材などを用いて、環境にやさしい農業を目指す。		
	幼稚園との農業交流	サツマイモを教材として収穫体験を行う。		
	上伊那農業	地域特産物		生物探究
			コミュニティデザイン科	昆虫食
	下伊那農業	地産食材を活用した弁当づくり	アグリサービスク	地元飲食店とコラボして、地域特産品を活用した地域おこし弁当を企画・販売し、地産地消を学んでいる。
		放置竹林の有効活用		伐採した放置竹を利用して、鶏小屋や餌箱などを製作するなど有効活用の研究をしている。
		料理コンテスト		地元農業経営者グループや JA 等と連携し、テーマ食材に沿った料理の作成と披露・試食会を実施し、投票により各種賞を決め表彰する
各種調理技能検定		キュウリ・卵焼き・太巻き・おせち料理検定を実施し、技術の定着を図る。		
	保育園との交流		年間を通して保育園とのトウモロコシやサツマイモ栽培交流、動物とのふれあい目的の遠足受け入れ、保育園を訪問し人形劇の上演。	

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
長野	下伊那農業	伝統野菜栽培農家との交流	アグリサービス科	伝統野菜栽培農家との交流学习を通し、地域資源について学習している。
		HONDA エコマイルドチャレンジ	農業機械科	1リットルのガソリンで何Km 走行できるか競う大会に毎年出場している。
		ドローンの導入試験		ドローンを使い圃場の様子を2ヶ月毎に撮影している。また、よこね田んぼの1年を撮影し地域連携にも貢献している。
		果実の長期保存研究	園芸クリエイト科	ナシやブドウの長期保存方法の研究として、1-MCP 処理や MA 包装貯蔵に取り組んでいる
		ロスフラワーの活用		地域で栽培される草花の消費拡大を目指し、フラワーアレンジ教室の開催と近隣施設での販売に取り組んでいる
		企業インターンシップ	食品化学科	食品製造関係企業で、夏季休業中に1年生全員がインターンシップを行う。
		シードルの試験醸造		リンゴを使用した醸造酒「シードル」の研究に取り組み、商品化を目指す。
		煎茶道講習		3年生を対象に学校で製茶した煎茶を使い、お茶の入れ方・飲み方等の作法について専門家から学ぶ。
		市田柿の利用研究		地元特産の市田柿の果皮の利用を研究し、有効利用に向けて研究を行う。
	茶の栽培、加工	地域の方に栽培加工方法を指導していただきながら、品質の良い茶(煎茶・紅茶)の製造販売を行う。		
	りんご並木花いっぱい交流会	農業クラブ	飯田東中学校生徒とりんご並木花壇づくりを行う。種まき・育苗・植付までを共に行い交流を深めている。	
	塩尻志学館	ワイン醸造	総合学科	ワイン用ブドウの栽培からワイン醸造・販売までを行っている
	南安曇農業	商品開発	グリーンサイエンス科	食品加工品に関わる新商品開発。安曇野市との商品開発連携事業。
		マーケティング塾	生物工学科	県内商業高校・松本大学と連携して商品開発。販売方法を学習(6次産業化)
		特別支援学校との交流	グリーンサイエンス科・生物工学科	果樹栽培、藍栽培での交流
		建設系学科高校生の就労促進事業	環境クリエイト科	建設機械、型枠製作、鉄筋結束、現場見学会、測量講習会の実施
出前授業		グリーンサイエンス科・生物工学科	地域公民館や養護学校分教室、小学校、保育園、老人福祉施設における出前授業(りんご栽培・寄せ植え・ふれあい動物園)	
学校開放講座		全学科	地域の方々を対象として、生徒が講師となり、様々な講座を運営	
愛知	稲沢	稲わら活用プロジェクト	園芸科	地域の稲わら細工職人に様々な稲わら細工指導を受け、全国的にも有名な奇祭である、国府宮神社の「はだか祭り」に奉納する米俵を学校で栽培した稲わらを使用して作成している。技術の継承が今後もされていくようにわら細工のマニュアル冊子の作成もしている。
		ふれあい農園		市の広報で募集した地域の住民に対して、野菜専攻生がコミュニケーションを取りながら農業実習を行っている。毎回生徒は実習内容を事前に黒板に書き、自ら参加者に説明をし、実習指導を主体的に行っている。
	佐屋	文鳥文化継承プロジェクト	生物生産科	地元弥富市特産の手乗り文鳥の繁殖と文鳥文化を継承し、遺伝子解析により白文鳥の生産効率を上げるプロジェクトを名古屋大学と協働で研究している。
		水田生態系保全プロジェクト		チェーン除草により農薬を使わない水田稲作を推進しながら生物多様性を保全するプロジェクトを展開し、生きものの楽園を目指す水田生態系を確立する。
	半田農業	ヘイケボタル復活プロジェクト	農業科学科	行政、地元企業と連携し、ヘイケボタルを人工繁殖させ、企業や行政とともにヘイケボタル放流会を開催し環境保全活動を推進した。
	安城農林	「岡崎おうはん卵」普及プロジェクト	動物科学科	西三河地域で開発された純国産鶏「岡崎おうはん」を岡崎市と協働して全国に普及させるプロジェクトを実施している。
	渥美農業	ヒマワリプロジェクト	全学科	企業や自治体と協力し、渥美半島にヒマワリを植え、地域の活性化を目指す。
	新城有教館	こども農学校	総合学科	JA 愛知東が主催するこども農学校に、農業の系列生徒以外の生徒もボランティアとして参加している。小学生の農作業などを補助している。
	新城有教館作手	環境保全	人と自然	サギソウの保全活動を中学校と協力して実践している。
田口	スマート林業担い手育成事業	林業科	スマート林業について地域と連携しながら学びを進め、将来の人材育成にしている。	
岐阜	大垣養老	美濃柴犬の種の保存と広報活動	動物科学科	岐阜県の地犬で希少な固有種である「美濃柴犬」の種の保存を目的として、2頭的美濃柴犬を飼育し、科学的な診断も含めて繁殖活動に取り組み成功した。これらの活動を NHK-E テレビや地元メディアで報道された。
	加茂農林	あじさいプロジェクト	全学科	地域と連携して、本校所在地である美濃加茂市の花である「あじさい」を植えたあじさいロードをつくり地域活性化を図るプロジェクト活動に、全学科(5学科)で連携して取り組んでいる。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
岐阜	加茂農林	二卵受胎と双子の育成	生産科学科	県内産肥育素牛を確保するために、受精卵移植による双子生産を研究テーマに掲げ調査に取り組んでいる。
		あじさいマカロンの開発	食品科学科	美濃加茂市の手土産を作るため、青色色素をもつ蝶豆を利用した市の色「コバルトブルー」と市の花「アジサイ」をイメージした商品開発を行っている。また、蝶豆を新たな地域資源として活用する取組も行っている。
		株立ち状の苗木生産技術の確立	森林科学科	原木の収穫サイクルを短くするために、コナラの苗木を最初から株立ち状態にする研究を行った。これを応用して、株立ち状の木の実が生る苗木を生産し、樹高の低い樹形に仕立て、国産の木の実生産を可能にする取組を行っている。
		高齢単身世帯の樹木管理	環境デザイン科	木の種類に合わせた管理方法の学習を活かして、平成30年度より市内の高齢単身世帯の庭管理活動に取り組んでいる。
		地域と連携した花苗の活用	園芸流通科	栽培した花壇苗を地元花壇や小学校、杉原千畝記念館前の人道の丘等、地域各所で植栽する活動を継続している。
	恵那農業	持続可能な農業への取組	園芸科学科	キュウリによる有機 JAS 認証の取得、日本ナシによる JGAP 認証の取得と、ロボット草刈り機やスマートフォンによるかん水制御などのスマート農業への取組。
	阿木	地域をつなぐ SDGs	生産科学科	SDGs に関心を持った生徒が、販売できない実習製品（ジャム）を昆虫用ゼリーに加工する、廃棄するシュレッダー屑を花壇の防草用として活用するなどの取り組みを地域の方々に紹介し、SDGs 活動を普及している。
三重	四日市農芸	もち小麦の新たな魅力を生かすパンの開発及び有効成分の活用	食品科学科	地域ブランド「桑名もち小麦」の研究、商品開発を通して、人と環境にやさしい持続可能な地域への貢献という目的達成のため、地元食材の活用、廃棄物の削減、そして、地場産業の活性化、PR 活動を行っている。
	久居農林	わくわく農林塾	全学科	地元の幼稚園・小学校・自治会などを対象に、各コースの教育内容・活動を中心に生徒が講師となり体験学習を行う。
	明野	エコフィード	生産科学科 畜産専攻	食品工場から出る残渣を飼料利用する研究を行う。
		SDGs 学習	生産科学科	学校設定科目「食糧科学」で SDGs をとりあげ 17 のゴールのうち、主に農業に求められる物を学習する。SDGs 発出されたプロジェクト学習の題目が増えている。
		農福連携		軽度知的障がい者が主に収入を得るための農業で何ができるか。あるいは福祉施設で栽培された農作物を使い、食品関連会社でどんな製品ができるか研究する。
		キャリアプラン	生産科学科 食品科学科	2 年生で年間 10 人程度の農業経営者や食品製造会社社長等の話を聞く事により、生徒の将来の夢の実現に向けた取り組みや目標設定のための示唆を与える。
	相可	どんとコイプロジェクト	生産経済科	学校の水田に廃棄される予定だったコイの稚魚を放し、化学的肥料や化学的農業を使用しない栽培への挑戦を開始した。廃棄する予定の酒粕・米ぬかなどを譲り受け、冬に土壤に施し、土づくりに取り組んだ。
		バイオマス消化液の研究		本校食物調理科の食品残渣をプラントに投入、消化液を作出。消化液を葉物野菜の液肥として散布、生産物は製油会社で「バイオバジルオイル」として商品化。地元多気町ふるさと納税返礼品としても採用されている。
		伊勢芋の種芋栽培の周年化		地元伝統作物「伊勢芋」の密閉型育苗施設による細分割増殖法の実証研究に取り組んでいる。本来露地で栽培する伊勢芋を環境制御した施設内で栽培、極小の切片を活用し一年中種芋の生産ができないかという研究である。
		資格取得と進路保障		環境創造科
伊賀白鳳	ノハナショウブの保全活動	生物資源科	地域の天然記念物ノハナショウブを地域の方と一緒に保全活動を実施している	
滋賀	長浜農業	第 12 回全国和牛能力共進会	農業科	令和 2 年度から農業高校・農業大学の部の県代表となり、和牛（♀）育成牛の飼育を継続して令和 5 年度に鹿児島大会へ出場する。
		しがふるさと支え合い事業	園芸科	令和 3 年度から 3 年間の事業で、滋賀県米原市にある伊吹くらしのやくそう倶楽部との連携で伊吹山のふもとにある棚田を舞台にマコモ栽培から、地域の特産品開発を行う研究に取り組んでいる。
	湖南農業	スマート農業	農業科	野菜班の生徒が、オムロン株式会社と協同し、スマート農業の学習に取り組んでいる。スマート農業勉強会に取り組む、ハウス内の測定データの蓄積と解析を進めている。
		食品ロス低減に向けた取組み	食品科	本校産のジャムが食品ロスとならないように、パウンドケーキ製造に活用し、販売を行っている。
		全国植樹祭におけるお野立所のフラワーアレンジメント制作	花緑科	第72回全国植樹祭しが 2022 におけるお野立所の両脇に設置する 2 基のフラワーアレンジメントを制作した。デザインを考え、信楽高校が制作した花器に生花を用いてフラワーアレンジメントを制作し、会場を盛り上げた。
	八日市南	地元ケーブルテレビ園芸講座	農業科	年間 9 シリーズの野菜栽培についての園芸講座を放映
		ふるさと納税返礼品提供		本校で採れた米・果実を東近江市ふるさと納税返礼品として提供
	甲南	滋賀ふるさと支えあい事業	生物と環境コース	牛飼地域と連携し、田んぼアートでの協力。地元の農産物販売への協力。
	京都	桂	京の伝統野菜を守る	

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要	
京都	桂	循環型農業を目指す		地元企業や大学と連携し、コーヒー残渣をきのこの菌床栽培の基材として活用、さらにその廃菌床も堆肥として使用できるよう調査している。	
		芝を活用した環境保全		地元企業や大学と連携し、京都府美山町での芝生産や芝を利用した環境保全への取り組みを行っている。	
	北桑田	悠久の森プロジェクト(産学官)	京都フォレスト科	京都伝統産業の74品目の一つである和蠟燭の存続を産学官で継承を目指すプロジェクト活動。また、地元小学生に植林の大切さを学んでもらい産学官が連携した地域活性化や保全「木育」をテーマにしたプロジェクト活動。	
	北桑田 美山分校	アカネプロジェクト	農業科	高級染料となるアカネの繁殖栽培を地域と連携して行う。染色体験も行う。	
	農芸	フラワーキャラバン	園芸技術科	近隣施設や保育所・学校などの花壇への花苗植え付け作業を行い、地域の環境整備に貢献している。	
		農場 HACCP 認証への取組	農業生産科	令和3年度に採卵鶏での農場 HACCP 認証を目指した取組を行い、令和4年度に認証を取得した。	
		玄米たまご生産		飼料米を与え、白い黄身の卵を開発した。この玄米たまごを京都市内のホテルに出荷し、白いオムライスとして話題になっている。	
	綾部	即売会	農業科、園芸科、農芸化学科	実習等で生産した野菜や花、加工品を生徒が地域の方々へ販売を行う。	
		クリスマスケーキ製造販売		全学科の三年生が協力してクリスマスケーキを製造し、地域の方々に販売を行う。また地域の老人ホームなどへ作製したクリスマスケーキを寄贈するボランティアも実施している。	
		由良川クリーン大作戦	分析化学部	近隣を流れる由良川のゴミ収集を市民や府民に参加を募って実施し、今年度は340名の参加があった。	
		東祭	農業科、園芸科、農芸化学科	年に1度実習で作製した生産物を大々的に地域の方々へ販売する行事。収穫感謝祭も併せて実施している。	
	丹後緑風	松林再生プロジェクト	アグサイエンス科	平成25年から取り組んでおり、海岸松林についての学習や京都府緑化センターで種子の採取や播種、育苗方法を教えてもらい、松苗の生産や植樹、その後の管理を継続的にしている。	
大阪	農芸	ゼロエミッション	全学科	作物残渣、製造加工品残渣等の未利用資源を活用して、資源動物科の家畜の肥料として給餌。堆肥化して圃場に施肥して循環型農業を実現。	
		地域創生と発信力強化	ハイテク農芸科と資源動物科	企業連携を通じて、農産物や加工品の販売、ふれあい動物園活動、農業体験など生徒が主体となったアグリフェスを期間限定で実施。また、企業連携のより本校産の具材を活用したレトルトカレーを開発(農芸野菜カレー、農芸カレーうどんの素)・販売活動を実施。	
		大阪伝統のブドウ産業の復活と振興	ハイテク農芸科	産学連携によるブドウ新品種開発支援により、かつて日本一の栽培面性を誇った大阪ブドウ産業の復活と振興をめざす。	
		ネリカ米の栽培と普及活動		アフリカ種系のネリカ陸稲米を日本で水稻栽培し、その普及・広報および企業連携を込めて国際協力活動を実施。	
		地域食文化、伝統食文化の理解・伝承	食品加工科	和菓子職人や大学・専門学校等と連携し、黄味時雨、上生菓子等の和菓子技術、地域伝統菓子「あかねこ餅」、なにわの伝統野菜を活用した料理、そば打ち技術などの実践。地域特産品のイチジクを使ったジャムやトマトを使ったケッチャップなどを開発。	
		災害備蓄食品の開発		災害時の備蓄品として、ハイテク農芸科の米や野菜、資源動物科の豚肉等を使用してレトルトカレーを開発。	
		高校生カフェレストラン		スイーツ製造やハンドドリップコーヒー技術を用いて、地域連携として高齢者福祉施設など出張高校生カフェレストランを実施。	
		シャッター商店街の町おこし		パンの製造や食品柳津技術を用いて、地域のシャッター商店街で月1回の高校生のパン屋を運営、地域を巻き込んだ交流会を展開。	
		大阪伝統の鴨産業の復活と振興	資源動物科	かつては日本一の生産量を誇った大阪鴨産業の復活と振興をめざす。農芸鴨のブランド化を図り、門外不出の大阪伝統食鳥処理技術(鴨の大阪割り)を特別に継承、農芸鴨を用いた菓膳会席料理提供の高校生レストランを実施。	
		AAA(アニマル・アシスト・アクティビティ)の実践		JRAと連携したホースセラピー、馬調教訓練、ダックセラピーの項か堅調と推進活動。	
		教育ファーム活動		農と食と命を伝える授業を中学生等へ実施。家畜の誕生から、飼育・ト殺解体、調理をして食するまでの一貫した体験型学習。その他、酪農教育ファーム認定農場としても活動。	
		商標登録(のうげいポーク)ブランドの強化		ブランド化したのうげいポークの更なる品質向上をはかり、飲食店や百貨店と連携した販売活動、研究所と連携した肉質調査を実施。	
		マザービーフの商品開発		経産牛を肥育し、マザービーフとしてのブランド化を図る。大阪産としての認定を受け、近隣レストランと連携した商品を開発。	
		園芸		商品開発	バイオサイエンス科
		兵庫	有馬	来園者に自然環境の魅力を伝えるための夢プログラムの企画・実施	人と自然科

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
兵庫	有馬	地域オープン講座	人と自然科	学校設定科目「クラインガルテン」において、野菜・果樹栽培を生徒が地域の方に教える講座を開講。また、学校設定科目「フローラルアート」でもフラワーアレンジメントに関する技術を生徒が教える講座を開講している。
	佐用	保育園、幼稚園交流、小学校、特別支援学校との農業学習・体験交流支援	農業科学科	保育園、幼稚園交流、小学校、特別支援学校との農業学習・体験交流支援として、サツマイモ、イネ、ダイズの栽培をはじめ、自然学校の農業体験プログラムの指導を学科生徒が主体的に実践している。
		伝統工芸品紙すき技術の継承と研究		皆田和紙保存会と連携して和紙材料「楮」の栽培供給・研究、行燈制作を通して、地域の伝統工芸品「皆田和紙」の紙すき技術の継承と普及活動、商品開発を行っている。
	篠山産業	地域の特産物の栽培	農と食科	学校のある丹波篠山地区は黒大豆や山の芋の特産物が有名である。農と食科では、学校設定科目「特産物栽培」という授業の中で、地元の特産物の栽培方法を学ぶことができる。
	篠山東雲	東雲酒米プロジェクト	地域農業科	酒米新品種「HyogoSake85」等を栽培、地元鳳鳴酒造株式会社がその酒米で清酒「東雲の穂」製造。
		東雲コミュニティーステーション		近隣小学校跡施設の庭園整備や地域のバス停の改修などを行い、本校で栽培飼育している草花・動物を利用して地域住民等と交流。
		地域の生態系を壊す外来生物の有効活用		篠山城跡の掘に生息するウナギ等外来生物の駆除活動や調査と食材化を実施し、地域へ発信、啓発。
	但馬農業	牛の行動をモニタリング	総合畜産科	肥育牛にモニタリングシステムを装着し、牛の採食・反すう・飲水などを記録し、このデータをもとに病牛や要注意牛をリアルタイムに発信するのでAIを活用したスマート農業可能となる。このデータをもとに、肉生産の関連について京都大学と研究を進めている。
	農業	第23回高校生小論文コンクール	生物工学科	タイトル「食の未来を守る遺伝子」に応募。過去最多の応募数。全国の高校生から一万件以上の論文の中から最優秀賞を受賞しました。
	播磨農業	有機 JAS 認定の水稲(うるち米、酒米)	農業経営科	有機 JAS 認定取得の水稲生産(うるち米、酒米)
氷上高校	学校設定教科の設置	教科:丹波学、科目:地域未来、起業経営	学校がある丹波地域の特徴などを理解したうえで、地域の起業家や企業から講師を招聘し、商品開発や6次産業(化)のノウハウを学ぶ。それを3年で設定している「課題研究」で活かすための教科を独自に設定している。	
奈良	磯城野	味間いもプロジェクト	バイオ技術科	本校の所在地である田原本町で古くから栽培されている味間いもの苗づくりや味間いもを使った加工品のレシピづくり、地元企業とともに製品化し販売した。
	吉野	KINONOWA ふろじえくと	森林科学科	「ひととつながる。自然とつながる。木でつながる。」をテーマに「KINONOWA」プロジェクトを新たにスタートしました。ワークショップ活動、ニュースポーツ「クッパ」の普及活動等を行っています。
	西吉野農業	農家での実習・就労体験活動	農業科	2・3年生の総合実習で、地域農家・農業法人に2～3人のグループで終日、受入農家の指導で作業している。4年生では、就労体験活動として、週2日終日、農家・農業法人で作業している。
和歌山	南部	UME-1フェスタin梅の里みなべへの参加	食と農園科	学校所在地であるみなべ町主催の高校生の梅料理コンテストイベントへの出場だけではなく、企画、運営にも生徒が地域の住民と一緒に頑張ってかかわっている。
鳥取	鳥取湖陵	オリジナル商品開発	食品システム科	近隣の大学と連携し、学校内の花や野菜からローカル酵母を抽出し、それを利用した学校独自のオリジナルパンの開発・販売を行う
	智頭農林	地域基礎	全科1年生	地元智頭町と連携し、文化や産業の体験学習を行う。全クラス合同のグループ学習やICTを活用し、コミュニケーション能力やプレゼン能力を向上する。この学習をもとに、2・3年次「課題研究」は地域と連携しながら研究をすすめている。
	倉吉農業	スーパー農林水産業士を育成	生物科、食品科、環境科	就農を目指す生徒で、認定プログラムを修了し、特に成績優秀な生徒を「スーパー農林水産業士」として鳥取県が認定するものである。食の6次産業化プロデューサー認定と長期インターンシップの修了が課せられている。
		青パパイヤの特産品と耕作放棄地削減を目指した取り組み	生物科	パパイヤの未熟果である青パパイヤが山陰地方でも省力的に栽培が可能であり、果実・葉を活用する方法について関係機関と研究し、その成果を地域農業へ普及するプロジェクトに取り組んでいる。
		良食味米生産プロジェクト	食品科	「全国農業高校お米甲子園」において本校が出品した「ゆうだい21」が「金賞」を受賞し7年連続の入賞となった。
		スマート農業の実践		超省力化水稲栽培を学ぶため、スマート農業化に取り組んでいる。ドローンによる上空からのセンシングと農薬、追肥の実践、自動水管理システムの設置による水田の入排水の省力化などを実施している。
		鳥取県版 HACCP 認証		県版HACCP認証「ウインナーソーセージ」に加え、施設自体で複数の製品について認証される食品安全マネジメント規格(JFS-B)が認証された。
		イノシシレトルトカレー商品化及びいのこっつラーメンの開発		害獣とされる猪肉を使用したカレーのレシピを考案し、食品製造会社と共同開発したレトルトカレーが市販されている。また、地元レストランとの連携により「いのこっつラーメン」を開発し期間限定でメニュー化された。
	JR 倉吉駅「おもてなし庭園」整備	環境科	JR倉吉駅周辺の美化について駅北花壇の年2回の植栽、おもてなし庭園の作成と管理、駅構内へのブランダーの設置、年末にはパノラマ門松制作も恒例行事となっている。	
	日野	日野高版デュアルシステム	総合学科アグリライフ系列	地域産業である林業の担い手育成を目的に林業アカデミー、森林組合、振興局と連携し、5月～11月の期間、講話や施設見学、高性能林業機械・ドローンを使った現場での実習を行っている。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
高 根	出雲農林	スマート農業学習	植物科学科	企業、自治体と連携し、ブドウ栽培のVR学習、ロボットトラクタ、自動操舵大型農業機械の操作研修を定期的に行い、技術を身につける。
	益田翔陽	地元ケーブルテレビでの番組製作	生物環境工学科	地元ケーブルテレビ及び自治体と連携し、「はじめての菜園生活」という番組を毎月収録・放送している。本学科の生徒・職員が講師となって、番組レポーターに野菜作りの基本的な知識や技術を指導している。
岡 山	勝間田	伐木チャンピオンシップ出場	総合学科森林系列	本校森林系列では、グリーン環境科の時15年ほど前から、鳥取県立智頭農林高校とチェーンソー競技会を行っていたが、令和3年度は鳥取県で、令和4年度は青森県で開かれた、伐木チャンピオンシップビギナークラスに高校生で唯一出場した。
	新見	地域ブランド牛の継承	生物生産	生物調査部畜産班では、地域のブランド牛「千屋牛」の継承に取り組んでいる。地域の伝統である高等調教技術を継承する活動を行っている。また、調教講習会や共進会に参加し、地域の生産農家との交流を深める活動も積極的に進めている。
	興陽	スマート農業	農業科	15haある田園を対象に大型機械やGPS 田植機、ドローン等を使用し、また自動環境制御装置を組み込んだハウス等を含めたスマート農業学習を展開しています。
	井原	井原デニムによる地域活性化事業	園芸科	「D#プロジェクト〜ハートフルデニムバッグ製作〜」井原市内の小学1年生に入学記念として贈るデニムバッグを製作する。園芸科が綿の播種から収穫まで担当する。綿からデニム生地までを地域企業協力のもと、家政科が縫製を担当した。
	真庭	ミニパブリカの試験栽培と苗の供給	生物生産科	地元 JA、市役所と連携してミニパブリカ(商品名 パプ丸)の試験栽培と地元農家への供給に取り組んでいる。
広 島	吉田	ふるさと納税の返礼品の出荷	アグリビジネス科	本校生産品であるブドウが安芸高田市のふるさと納税の返礼品として選定され、出荷されている。
	沼南	イグサプロジェクト	園芸デザイン科	広島県東部の伝統産業である“備後畳表”に関わる歴史と文化・技術を後世に継承するため、畳表の原材料となるイグサ“せとなみ”の栽培を行っている。外部講師の授業、ボランティア活動、商品開発等を行っている。
		専門学科間交流		総合的な探究の時間において、専門学科間(家政科、農業科)で、1年次は野菜栽培と調理を、2年次は栽培品を活用した染色を題材に交流学習を行っている。
		こども園とのサツマイモを活用した交流学習		「グリーンライフ」の授業でサツマイモの植付、収穫、加工の指導を通して年少者との交流を行い、作物の活用について理解を深めるとともに、年齢を異にする人たちに対する理解を深める。(新型コロナウイルス感染症予防のため今年度は中止)
		特別支援学校とのぶどうを活用した交流学習		「果樹」の授業でブドウの袋掛け、収穫を通して知的障害をもつ人たちとの交流を行い、果樹の栽培について理解を深めるとともに、障害に対する理解を深める。(新型コロナウイルス感染症予防のため今年度は中止)
		地元企業との連携による商品開発		「課題研究」の授業で地元企業との連携により本校生産物であるブドウを材料に、菓子、ワインの商品開発を行い、製造を委託し・販売を行っている。(新型コロナウイルス感染症予防のため今年度は中止)
		市民農園の開設・運営		「グリーンライフ」の授業でヒューマンサービスの内容として市民農園を開設、運営し、開園式を行うなどの交流を行っている。(新型コロナウイルス感染症予防のため今年度は中止)
	油木	ドローンアカデミー	産業ビジネス科	今後のスマート農業の取り組みから、ドローンのライセンスを生徒に取得させ、それだけではなく物的投下の免許なども併せて取得させより実践的な活動を行っている。
		ナマズプロジェクト		地域の耕作放棄地問題解決や町のPRのため、ナマズの養殖を行っている。現在は、ナマズの燻製など新商品の開発や養殖技術の向上などに日々取り組んでいる。
	西条農業	スーパーサイエンスハイスクール事業	園芸科、畜産科、生活科、農業機械科、緑地土木科、生物工学科、食品科学科	農業・食料問題を科学技術の力で解決するグローバル人材育成プログラムの開発として、次の3点に取り組んでいる。 1□ 高度で創造的な研究の継続的実践による科学技術リテラシーの向上 2□ 小・中・高・大・研究機関との連携・接続等による科学技術人材育成システムの構築 3□ 海外連携等によりグローバルな視点を育てるための教育プログラムの開発
庄原実業	マイスター・ハイスクール事業	全学科	庄原市、庄原商工会議所及び県立広島大学等と連携した「庄原ひとづくりコンソーシアム」により、地域を学習フィールドと活用した「未来思考型PBL」を展開し、地域に貢献し次世代に対応できる職業人材を育む。	
山 口	田布施農工	酒造実習	食品科学科	学校設定科目「酒類醸造」を設置しており、日本酒の試験醸造を行っている。
	大津緑洋	ハマオモトの保護活動	生物生産科・生活科学科	長門市内にある二位ノ浜に自生するハマオモトが日本海側の自生地北限として山口県の天然記念物に指定されており、ハマオモトヨトウの防除や海浜清掃を行ない保護活動を続けている。
直売所の運営		年間約20回、科目「総合実習」「農業経営」で校内にある直売所「農高夢市場」の運営を実施している。校内で生産された農産物・農産加工品や水産加工品を直売所で販売している。		
徳 島	城西	藍染め	植物活用科	本校には徳島の伝統文化、藍染めについて栽培から染色までを学ぶ専攻がある。藍染めは絞りの回数によって美しい模様や濃淡を出すことができ、服や小物の藍染め意外にも高校間連携で食藍にも取り組んでいる。
	城西 神山校	まめのくぼプロジェクト	地域創生類	耕作放棄地を開拓し、地域で70年以上受け継がれてきた「神山小麦」を栽培し、加工・販売、地域に還元する。また、棚田の石積み修復し、景観を整備し、まちの風景を高校生が作っている。
	池田 三好校	夏秋イチゴ栽培研究	食農科学科	複合環境制御装置を利用した低標高イチゴの栽培を実施し、イチゴワイン等の製造を行っている。
ホンシメジの菌床栽培		環境資源科	ホンシメジの人工栽培技術を確立し、地元林業団体への技術移転を行い、地域の特産品として需要拡大を実施している。	

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
徳島	吉野川	ふるさと納税返礼品 (吉野川市・阿波市)	農業科学科	2市のふるさと納税返礼品としてシャインマスカット 150 房を提供している。
	那賀	フォレストキャンパス 那賀	森林クリエイト 科	本校では、地方創生を担うフォレストスターの養成を目標に、林業実習地「フォレストキャンパス那賀」での実習や資格取得に取り組んでいる。
香川	笠田	直売所	農業科	毎月1～2回農場を開放して一般の方に、本校で栽培した野菜や花の苗、加工食品を販売している。
		学校給食食材提供	農産科学科	農産科学科の野菜部門で栽培された玉ねぎや果樹部門で栽培されたナンなどを地元の小中学校の給食食材として提供している。
		出前授業	植物科学科	地域の公民館へ赴き、草花の寄せ植え講習会を生徒主導のもと行わせていただいている。
		外部講師		フラワーアレンジメントの講師を招いて、フラワーデザイン選択生徒にフラワーアレンジメントを教えていただいている。
		保育園・幼稚園との交流	農業科	年に3から5回程度、地元の幼稚園児と草花の寄せ植え、スタンプラリー、動物とのふれあいなどの交流を行っている。
		JGAP 認証	農産科学科	果樹部門は日本ナシ、野菜部門はアスパラガスの JGAP 認証を取得しており、毎年、専攻生が JGAP 認証審査に向けて取り組んでいる。
	農業経営	主基斎田お田植まつり	全学年	大正天皇即位の大嘗祭に新穀を奉納を与った主基斎田で、町無形文化財「主基斎田お田植まつり」に、本校女子生徒が早乙女・踊り子として参加している。(令和3年度はコロナ感染症防止のため中止・令和4年度は実施いたしました)
		地域農業学習	2年全学科	2年生の希望者を対象とし、生徒の居住地を担当する農業改良普及センターと連携し、地域の先進的な農家や企業で見学研修を行っている。(令和3年度は農業経営高校において地元の篤農家を招いて実施)
		先端農業実地研修	2・3年全学科	2・3年生を対象に学科や専攻に応じた企業や研究機関を訪問し、進んだ農業技術を学ぶ研修を行っている。
		外部講師により技術指導	3年全学科	各専攻学習の深化を図るため、外部講師(地元菓子店、企業専門職員など)を招聘し、実践的な技術を学んでいる。
		保育所との交流活動		地元の保育園児を農場に招き、イモのつるさしや収穫体験を実施している。(令和3年度はコロナ感染症防止のため中止)
		ふれあい動物園	3年動物科学科	移動動物園として地域の文化祭に参加。高齢者福祉施設の入所者や地元の小学校・保育園児・特別支援学校の生徒を農場に招待するなどして、動物(ポニー・イヌ等)とのふれあい体験を実施している。(黒字が令和3年度実施)
	瀬戸内グローバルラボへの参加	農業クラブ役員	瀬戸内地域の企業が、国際ビジネスを学ぶとともに人脈や情報の連携を図り、地元産品の新たな価値を見出すためのオープンイノベーションの場として会議を開催し、本校生徒も参加している。(令和3年度より)	
飯山	ひまわり迷路	総合	休耕田にひまわりを栽培して、開花時期に迷路を造り近隣の幼稚園や保育所を招待している。本年度は3年ぶりに高校生と園児が手をつなぎ迷路を巡ることができ交流が可能となった。	
西条農業	中山間地域でのパイナップル栽培	食農科学科	中山間地域でパイナップルの栽培を普及させることで、鳥獣害による被害の少ない農業の確立を目指す。	
	石鎚黒茶の栽培と製造・普及	食農科学科、環境工学科、生活デザイン科	全国でも珍しい2段階発酵によりつくられる、石鎚黒茶の栽培・製造技術の継承と普及活動を行う。	
	棚田保全活動		市内千町地区にある耕作放棄が目立つ棚田での稲作などの保全活動の実施。	
	特産品を使った商品開発	食農科学科	西条市の特産物であるはだか麦やホウレンソウなどを使って、企業と共同でホウレンソウうどんやハンバーガーなどの新商品の開発を行う。	
	高校生レストラン	生活デザイン科	市内商店街の店舗を活用して、特産品などを使った料理の提供を定期的に行う。	
	スマート農業の実践	食農科学科、生活デザイン科	フィールドサーバードローン、アプリを使った生育管理。生育管理や POS アプリなどの作成。GPS 田植機や農業散布用ドローンの導入と研修。	
愛媛	丹原	台湾輸出	園芸科学科	本校はブドウ栽培でグローバル GAP 認証を取得している。またそのブドウを台湾のスーパーに輸出している。
	今治南	今治地域魅力発信活動	園芸クリエイト科	学校と県(地域農業育成室)、今治 CATV、JA おちいまばりなどの関連団体が連携し、地域先進農家への訪問や農産物の収穫体験を通して、地域にある魅力ある農業を紹介する活動。
		特産品を使った商品開発		愛媛で生まれた媛かぐや(サトイモ)の栽培や加工品の商品開発を通して、媛かぐやの農産物としての PR と地域活性化を行う活動
	伊予農業	水田作業の省力化	環境開発	水田に自動で水位を計測できるセンサーを取り付け、自動で水田の推移を調節できるように工夫した。ドローンを活用して収量を予測したり、高低差を計測する取り組みを行っている。播種もドローンで行う取り組みを行っている。
地域食材を使ったメニューの考案		生活科学	伊予市学校給食センター・ウエルピア伊予・にぎたつ会館・カフェ永遠・中山栗センター・伊予市地域包括支援センターと連携をとりながら、伊予市の食材を使った料理のレシピを提案している。	
川之石	産地間連携	総合	JA にしうわと提携している北海道の JA こしみず(北海道斜里郡小清水町)と小清水町が開発している特産品(じゃがいも・スイートポテト)の原材料に、本校のマーマレード(清見マーマレード)が採用された。	

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
愛媛	野村	芋焼酎開発	畜産科	地元酒蔵とコラボし、本校で生産されたサツマイモを使っの芋焼酎作りを実施している。
	北宇和三間	花いっぱいプロジェクト	農業機械	チューリップが満開になると地域のマスコミ等が報道及び記事として掲載される。
高知	高知農業	GAP 認証に向けた取組	農業総合科	米による GAP 認証取得を通じた教育活動の展開。
		IoT 関連		総合環境制御型(硬質プラスチック)ハウス(684.0㎡)によるトマト栽培を通じたIoTによる教育活動。
	HACCAP 認証に向けた取組	畜産総合科	高知県版 HACCAP 認証に向けた教育活動の展開。	
	高大連携事業	森林総合科	高知大学より講師を招聘し、スマート林業や森林林業の専門性向上を目指した学習活動の展開。	
幡多農業		園芸システム科	園芸システム科では、今年度から環境制御型ハウスを導入し、次世代型農業に関する授業に取り組んでいる。その中で、他校との遠隔教育システムを利用した交流事業にも取り組む予定である。	
福岡	福岡農業	太宰府市内小学校給食への食材提供プロジェクト(地場産物利用推進)	都市園芸科	太宰府市内の小学校7校に給食用食材を提供するプロジェクトとして、野菜の播種から栽培管理、収穫、配達までを行っている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため一時中止していたが昨年度から活動を再開。本年度はジャガイモ、大根、白菜、キャベツを太宰府西小学校5年生が播種、管理作業、収穫を体験。
		イモ掘り交流	環境活用科	例年 3000 本のサツマイモ苗を作付け。約15団体 1500 名(近隣幼稚園、保育園、太宰府特別支援学校)が来校し、サツマイモの収穫体験を環境緑化コース生徒2、3年生(40名)が主体となって運営。
		ふれあい動物広場の運営	環境活用科	愛玩動物(ポニー、ヤギ、ウサギ、イヌなど)を教材として、本校生徒が主体となって「ふれあい動物広場」の企画・運営を実施。学習した内容を基にクイズを作成するなど学習の成果発揮の場となっている。例年、中学生体験入学やユウカリ祭で実施。本年度は天拝小学校2年生との体験教室を企画している。
	梅研究班の取組	食品科学科	子ども食堂の運営	学科の特色を生かし地域の食育教育の推進役となるよう普及活動、調査研究などを行うことを目的とし、平成21年に「特定非営利活動法人 Eating love Circle」を設立。また、新しい日本型食生活の創造と食に関する環境改善のために講演会などを実施。現在では「子ども食堂」の運営を中心に活動している。
			梅の収穫から加工技術の習得を行うとともに、企業との連携・協力によって実践的な知識や技術を身につける。それらの活動による地域活性化を目指す。令和3年度はコロナ禍の影響でカルビー(株)との「ポテトチップス合格する梅」や山口油屋福太郎との「うめんべい」、高橋商店との「うめのり」など商品開発から販売までを学習、経験した。産学官の連携が強化され、太宰府市における「令和発祥の都 梅プロジェクト」の一環として活動することになり、さらに共同開発を行った企業からは、売上の一部を太宰府市に寄付していただくことで、太宰府市の地域振興・観光振興に貢献している。	
	食育活動「野菜・果物シスターズ」の取組	生活デザイン科	生徒が地域の保育園、幼稚園、地域のイベントなどで食育クイズ大会などの食育推進活動を行っている。また、本県がブランド化を進めている農産物等をモチーフにした衣装を製作し、活動している。現在では15品目の衣装を作製、更なる充実をめざしている。主な活動として「学校給食フェア」での食育クイズ大会の企画・運営を生徒が主体となって実施した。	
	糸島農業	大学と連携したスマート農業(ICT)を活用した農業学習	動植物活用科	九州大学と連携し、センシングシステムを活用して栽培環境と生育の関係について思考していく学習
根こぶ病の撲滅に向けた研究活動		農業技術科、農業経済科、園芸技術科	根こぶ病の撲滅に向け乳酸菌や豚骨出し殻等を使った防除法の研究	
久留米筑水	地元久留米の農業貢献プロジェクト「藤山梨を使った梨酢開発」	食品流通科	地元久留米の特産物である梨(傷梨)を加工し、企業と連携して梨酢を製作。	
佐賀	唐津南	虹の松原保全活動	食品流通科	19年に渡り唐津の宝(虹の松原)の再生保全活動に取り組んでいる。虹の松原を後世に繋ぐ為の循環型プランの構築を目指している。
		松葉プロジェクト		「食べて守ろう虹の松原プラン」として松葉の有効利用活動に取り組んでいる。大学・県機関・企業と協力し松葉を利用した様々な加工品の開発を行っている。
		白美茸プロジェクト		唐津特産品の白いキクラゲ(白美茸)の有効利用の為、企業と協力し様々な加工品の開発を行っている。
		大豆(オレインリッチ)プロジェクト		佐賀県特産品の大豆(オレインリッチ)の有効利用の為、大学・企業と協力し様々な加工品の開発を行っている。
		和牛甲子園への参加	生産技術科	ブランド牛(佐賀牛)の一大生産地である唐津の農高生が、日本一の和牛生産に向け日々取り組んでいる。
	伊万里実業		フードビジネス	規格外の農産物を活用した商品開発・カフェの運営。コロナの影響で移動マルシェも実施。食品ロス防止のため家庭で眠っている余剰食材回収し、子ども食堂や福祉施設に届けるフードドライブ活動を実施。
	佐賀農業	廃棄タマネギの商品化	農業科学科	佐賀県白石町のタマネギが新型コロナウイルスの影響で外食産業の低迷により、価格が暴落した。そこで、廃棄されるタマネギを有効活用し、冷凍タマネギを開発、販売にこぎつけた。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
長崎	島原農業	長崎県スマート農業高度化支援サービス事業	農業ビジネス科	農業高校にスマート機器を導入し、教育から農業現場まで一貫して農業技術のデジタル化を図る。
	諫早農業		農業科学科・動物科学科	
	北松農業	ドローン講習	生物生産科	ドローンスクールを年間4回開講し、ドローン操作技術の習得させる。
熊本	北稜	地元の特産品を活用した商品づくりイチゴバターづくり	園芸科学科 造園科	○令和3年度 5学科の特徴を活かして、地元企業と連携してイチゴバターの商品づくりを実施。 普通科:容器の選定 園芸科学科:イチゴの生産 造園科:桐箱づくり ビジネスマネジメント科:商品のラベル作成 家政科学科:イチゴバターの試作品づくり ○令和4年度 ふるさと納税の返礼品として登録し販売を開始。 ホームページの作成 おいしいイチゴバターの食べ方の紹介 桐箱のデザインなどの検討
			園芸技術科	本学科草花班では、熊本県阿蘇地域に自生するハナシノブなどの絶滅危惧種の指定植物を阿蘇ビジターセンターと連携して保護する活動を実施している。
	鹿本農業	阿蘇に自生する絶滅危惧種の保護活動	園芸技術科	本学科草花班では、熊本県阿蘇地域に自生するハナシノブなどの絶滅危惧種の指定植物を阿蘇ビジターセンターと連携して保護する活動を実施している。
		豚脂石鹸プロジェクト	畜産科	豚を加工する際捨てていた豚脂から生態系に影響しにくい石鹸を作成し、エコマーク申請中。国際協力機構とルワミツ社の協力のもとルワンダ国との技術交流を始めている。
	矢部	認知症予防木製パズルの製作と販売	林業科学科	町の社会福祉協議会、認知症予防パズルの専門家と連携して、木製の認知症予防パズルを企画・設計・製作し地域の福祉施設に無料配布。製品をブラッシュアップしたものを製作・販売した。年間限定 200 個の予約販売で、現在(R4.8)2年半待ちの人気商品である。
	八代農業	八代農業塾	園芸科学科	八代市と提携し、農業塾を共同で開催し、農業に関する高度で専門的な学習に取り組む、未来の農業者を育成するプログラムに取り組んでいる。
阿蘇中央	あか牛プロデュース弁当開発	農業食品科	肥後のあか牛の消費拡大を目標にした NPO 法人阿蘇田園空間との連携事業。	
大分	日出総合	HIJI SO GOOD プロジェクト	農業経営科	本校は、農業経営科・機械電子科・総合学科の3学科を有する学校で、それぞれの学科の特徴を活かし「HIJI SO GOOD プロジェクト」として、地域との連携を目指した取り組みを行っている。
	大分東	マイスター・ハイスクール事業	園芸ビジネス科 園芸デザイン科	産業界との一体・同期化による次世代担い手育成プロジェクトの実施。
		米ゲルを使った新商品の開発	園芸ビジネス科	米ゲルを使用し新商品となる加工品の製造。
		汚泥肥料の活用研究 地域交流を通じた花育活動	園芸デザイン科	食と下水道の連携～BISTRO 下水道～大分市が民間企業ベオリアニに委託し、汚泥肥料の共同研究を行っている。 地域交流を通じた花育活動で、多くの友人や子供たちに花の素晴らしさや楽しさを伝える活動の実施。
	久住高原農業	有機 JAS 認証による有機農業の実践	農業	平成 29 年度に農林水産省認定の有機 JAS 認証を取得した県内唯一の高校としてトマトやスイートコーン等の野菜を無農薬・無化学肥料で栽培しています。
宮崎	高鍋農業	魅力ある農業教育推進事業	全学科	地域と連携し、地域を担う人材育成を目指し、安全・安心な農畜産物生産や、その農畜産物や地域の特産物を活用した商品開発に挑戦するなど、情報発信に努め、専門性を生かした実践的、体験的な取り組みを実施している。
	都城農業	デュアルシステム	農業科、畜産科	7月～12月の期間で計10回のデュアルシステムを実施。農家、農業法人、農業関連企業において職場体験を実施し学びを深めている。
	日南振徳	スイートピー栽培	地域農業科	本校のある日南市は、スイートピー栽培の産地であり、農家の方々の協力によって栽培実験や栽培管理の指導を受けながら、地域農産物の活用による授業展開を行っている。
	小林秀峰	地域特産物を使った商品開発	農業科	地元企業と連携し、本校産の食品と地域特産物をコラボさせた商品の開発。
鹿児島	山川	ママ博士プロジェクト		学校が設置してある指宿・山川はマメの産地であることから「マメのことなら任せて」といった人材育成に取り組んでいる。
		お弁当の日		令和4年度を学校で取り組む食育年間とし、その一環で生徒と職員が月に1回(任意)お弁当作りに励んでいる。
		スメ体験プロジェクト	園芸工学・農業経済科	指宿・山川は温泉のまちであり、いたる所にスメ(天然の蒸し釜)が残っている。地元の農産物と地元資源を活用した取り組みが行われている。
		栽培プロジェクト	科目「農業と環境」の一環で生徒には場を提供し、栽培プロジェクトを実践している。	
		山川駅清掃ボランティア活動	最寄り駅である山川駅を年に数回、日頃の感謝を込めて清掃している。	

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
鹿児島	鶴翔	「空き地を有効活用したヒマワリ」と「3年A組シリーズ加工品」を使った観光列車「おれんじ食堂」利用客への「おもてなし活動」	農業科学科 食品技術科	観光列車「おれんじ食堂」利用客へ農業科学科草花専攻班のヒマワリ畑(沿線沿いの空き地利用)で「ようこそ阿久根」の横断幕で歓迎。阿久根駅では食品技術科の加工品を販売し、阿久根市や鶴翔高校のPRを行った。
		紅甘夏収穫実習		阿久根市農政課とJA鹿児島いづみが連携して取り組む「人・農地プラン」の一貫として、労働力不足が課題となっている生産者の援農という形で2017年から実習を2日間行っている。
		早春バレイショ収穫実習	農業科学科	JA鹿児島いづみの依頼を受け昨年度から実施。新型コロナの影響で外国人の技能実習生の確保が困難になっている状況下で農家の方々の手助けとなった。
		鶏・魚のさばき方講習会	食品技術科	地元企業や料理人の方々に来校して頂き、鶏1羽や地元で獲れた魚を丸ごとさばく調理実習を行っている。養鶏・漁業の盛んな地域ではあるが、このような機会の少ない生徒にとっては貴重な実習である。
	種子島	マルシェ及びふれあい講座	生物生産科	市役所と連携を取り、農産物販売とともに、日頃学校で学習している内容の一部を体験してもらふれあい講座を行う。最近行った内容は、紙漉きでできた紙を利用した作品作り、こけ玉作り、紙芝居の読み聞かせなど。
国分中央	地域連携	園芸工学	地域酒造会社の契約農家へバイオ苗の供給。	
沖縄	北部農林	カラキの商品開発	食品科学科	北部地域に自生しているカラキを有効活用するため商品開発に取り組んでいる。
		大麦栽培・加工商品開発の取り組み	熱帯農業・食品科学科	企業と大学と連携して大麦栽培とその商品開発にむけて研究に取り組んでいる。
		コーヒー栽培の取り組み	熱帯農業科	産官学連携してコーヒー栽培に取り組み、産業化に向けて取り組んでいる。
		山羊の研究		沖縄食文化の一つである山羊の飼育の研究とその商品開発に向けて取り組んでいる。
		ファインバブル水耕栽培	園芸工学科	ファインバブルを水耕栽培に取り入れ、付加価値のある葉菜類を生産しブランド化して供給している。
	中部農林	琉球藍の普及活動	熱帯資源科	沖縄の天然染料(琉球藍)の普及活動を通じた地域文化の継承を目指している。
		イチゴの新品種開発とブランディング	園芸科学科	イチゴの新品種開発を通じた、沖縄農業の新たな可能性の模索を行っている。
		琉球野菜やまんの普及・新商品開発活動	食品科学科	地域農家と連携を図り、「やまん」の6次産業化を通じた商品開発と伝統野菜の普及活動を行っている。
		廃材竹を利用したエコ竹灯り作り活動	造園科	規格外竹の形や色合いを活かしたオリジナル竹灯りを通じた環境保全活動。
	南部農林	ミックスジャムの開発活動	食糧生産科	隠れたフードロスを活用で新たな商品開発に取り組み持続可能な農業と社会を目指す。
		ハチミツ栽培の活動	生物資源科	地域企業と連携を図り、校内にてハチミツ栽培を研究している。
		商品活発活動	食品加工科	ヒハツモドキで健康長寿〜ピパーチを若い世代に
		シイタケ栽培の活動	環境創造科	沖縄県にて特用林産物となっているシイタケについて企業と連携し栽培技術の向上に向けて取り組んでいる。
		地域の伝統文化の継承	生活デザイン科	沖縄の民話を学び伝えよう 紙芝居「なかちのキジムナー」を通して地域保育園との交流。
	宮古総合実業	宮古島の養豚農家を救え	生物生産科	豚熱の影響により宮古島への種豚の導入出来なくなったことで、宮古島の養豚農家のために「種豚導入」という課題解決に取り組む種豚作出のプロジェクト。
		宮古島の地下水の保全に関する研究	食と環境(環境クエイトコース)	宮古島は生活用水、農業用水を地下水に依存している。その地下水の保全に関する研究。
	八重山農林	草刈り大会	全学科	全生徒が自生しているチガヤを刈り取る学校行事。学年男女ごとに、刈量のノルマを設定し、優勝者には「金の鎌」が授与される創立以来の伝統行事。刈り取られたチガヤは、圃場の敷材として利用したり畑にスキ込み土壌改良剤とする。